

【令和4年度農業大学校 重点目標】実績

| 番号 | 重点目標  | 評価指標  | 具体的方策  | 実績  | 課題等  | 担当部課 |
|----|---|---|--|---|--|------|
| 1  | 多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加<br>(教務課、養成部、研修部)       | ◎令和5年度入学試験合格者 40名<br>(R3実績:42名)   | (1)学生募集PR版の作成<br>(2)農大キャラバン隊の県内高校訪問による学生募集(6月)<br>(3)各高校の進路ガイダンスへの参加による農大PR<br>(4)農大オープンキャンパスの開催(5月、10月)<br>(5)農大体験カレッジの開催(7月)<br>(6)高校職員向けオープンキャンパスの開催(8月)<br>(7)農高・農大連携会議の開催による情報共有(5月、2月)<br>(8)農高主催の民間講師招聘事業への講師派遣<br>(9)農業高校の保護者へ農大PRのプリントを作成し全員に配付<br>(10)各農業高校と連携し、高卒即就農希望者(雇用就農を含む)に対し、農大進学への誘導を図る。<br>(11)各振興局ごとに「担い手育成計画」に基づき各作物担当を入れた情報交換、部会等を通じた農業高校・農大への進学の働きかけ(本土地区は6月の学校訪問又は7月の懇談会、離島地区は6月の学校訪問にあわせて実施) | 【実績】推薦・1次入試合格者32名(うち農大カレッジ参加者22名)<br>(1)学生募集PRポスターとパンフレットを作成した。<br>(2)県内の高校訪問した。73校(6月~7月)<br>(3)高校主催ガイダンスへ参加した。(のべ9回)<br>(4)5/14のオープンキャンパスは中止したが、同日開催された農業法人就職相談フェア会場で農大ブースを設置してもらい来場者に説明を行った。<br>(5)農大カレッジを開催した。(7/16・17)<br>参加者43名(3・4年生28名、2年生11名、1年生4名)<br>(6)高校職員向けオープンキャンパスを開催した。(8/17)<br>参加者17名<br>(7)農高・農大連携会議を開催した。(5/27、2/17予定)<br>(8)農高主催の民間講師招聘事業は未実施。<br>(9)農業高校の保護者へ農大のプリントを作成し配付した。(4月)<br>(10)各農業系高校に校長、教務課長が直接訪問し意見交換、1年生からの農大カレッジへの参加、農大進学への働きかけ等を依頼。(5/20・24)<br>(11)各振興局担当者にも6月の高校訪問に帯同していただいた。 | ・高校生のできるだけ早い段階で農業大学校を認知してもらい、進路の一つとして検討してもらえるように働きかける。   | 教務課  |
|    |   | ○ホームページ等による情報発信<br>ホームページの掲載年間220回<br>(養成部170回以上、研修部25回以上、その他25回以上)<br>(R3実績:227回)                        | (1)学生の学習成果やトピックス、スマート機器の導入や新寮建設、学科再編(コース制)の紹介、卒業生の近況や就農・就職先の職場の声など、ホームページやSNSによる情報発信<br>(2)受験希望者やその保護者に興味をもってもらおうよう内容の充実<br>【学科目標】 野菜学科・コース:60回 花き学科・コース:30回<br>果樹学科・コース:40回 畜産学科・40回<br>(視覚)各学科・コース 均等割り80回+学生人数割り100回<br>(3)若者の視聴機会が増えるように、Twitterの投稿回数を増加(学生による原稿作成等)。<br>(4)アクセスカウンターを設置し、閲覧者の関心が高い時期や内容を特定していく。   | 【実績】<br>(1)ホームページのタイムリーな情報更新は10月中旬審査時よりは改善したが、うまくいっていない状況があった。<br>(2)ホームページ更新回数<br>【学科実績】 野菜学科・コース:63回 花き学科・コース:28回<br>果樹学科・コース:46回 畜産学科:38回<br>研修部:19回 教務課:22回 計216回<br>(3)Twitterの投稿がうまく活用できなかった。<br>(4)アクセスカウンターの設置は今年度中に完成できなかった。   | (1)ホームページの内容をタイムリーなものにしなければならない。<br>(3)Twitterの活用は利用方法を含めて再検討が必要である。<br>(4)アクセスカウンターを設置し、アクセス時期と更新内容の比較が必要である。   | 教務課  |
|    |   | ○マスコミ等を通じたPR回数 20回<br>(R3実績:20回)  | (1)魅力あるイベントの企画、開催<br>(2)新聞やTV(サンサン、ひまわり含む)を活用した農大の魅力発信   | 【実績】<br>(1)飛雲祭を実施することができた。<br>(2)6/25FM長崎SaturdayChatBox、6/29KTNみじかなガサキ、8月諫早ケーブルメディア(果樹)、10月ひまわりテレビ・FM諫早、2月NIB・NCC(新寮)他 新聞掲載等 計16回  | ・メディアを効果的に活用することを増やす必要がある。   | 教務課  |
| 2  | 実践教育による、社会に役立つ人材の育成<br>(養成部)                  | ○日本農業技術検定2級合格者(割合%)<br>2年生取得者50%以上(15名)<br>(R3実績:31%(10名))  | (1)「園芸概論」「畜産概論」等基本的講義の理解度向上<br>(2)平素から問題集等で指導するなど受験対策の強化<br>(3)1年生は12月受験において、過半の者が全国平均点以上になるよう指導<br>(4)1年生に対し7月受験の働きかけを強化、なお3級未取得者は3級受験からのチャレンジを促し2級へのステップアップを図る<br>【学科目標】<br>野菜学科:8名(うち取得済み1名)<br>花き学科:1名(うち取得済み0名)<br>果樹学科:3名(うち取得済み1名)<br>畜産学科:4名(うち取得済み0名)   | (1)第1回検定7月9日2年生27名、第2回検定12月10日2年生15名が受験<br>【2年生の学科別合格者数】<br>野菜学科:4名(うち今回合格0名)<br>花き学科:1名(うち今回合格0名)<br>果樹学科:1名(うち今回合格0名)<br>畜産学科:2名(うち今回合格1(1名8月、1名12月)名)<br>合 計:8名/29名=27.6%<br>※他に畜産学科1年生2(1名高校時、1名8月)名、野菜学科2名合格<br><br>(2)第2回検定12月10日1年生33名が受験<br>【1年生全国平均点以上の学生数】<br>野菜学科:4名<br>花き学科:0名<br>果樹学科:2名<br>畜産学科:0名<br>合 計:6名/33名=18.2%  | (1)第2回検定においては、畜産学科1名が合格した。目標を達成したのは花き学科のみとなった。これまでの試験結果を分析して現1年生への指導手段等について検討を行う必要がある。<br><br>(2)第2回検定において1年生2名が2級に合格したが、2級の全国平均点以上の割合は18.2%と目標を達成することができなかった。次年度に向けて学習意欲の向上を図るとともに各学科・コースの専門講義及び実習において、知識の習得ができるような指導を行う。               | 養成部  |
|    |   | ○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%)<br>1年生全国平均点以上の学生数50%以上(12月受験)<br>(R3実績:21%)                                    | (1)自主的かつ科学的な手法による栽培管理技術の習得<br>(2)確実な進捗管理の実施<br>(3)卒論中間発表会(9月)、卒論発表会(2月)の内容充実<br>(4)ルーラル電子図書館等を活用した最新技術情報収集・活用<br>【学科目標】<br>野菜学科:15名/15名 花き学科:2名/2名<br>果樹学科:5名/5名 畜産学科:7名/7名  | 【実績】<br>一定水準以上の発表:75.9%(22名/29名)<br>【学科別実績】<br>野菜学科:10名/15名(66.7%)<br>花き学科:1名/2名(50%)<br>果樹学科:4名/5名(80%)<br>畜産学科:7名/7名(100%)  | (1)目標を達成することができなかった。発表時間の不足による減点で70点に満たなかった学生は3名であった。発表資料の作成等が遅れ、十分な練習時間を確保することができなかったためであると思われる。プロジェクトの取りまとめを早めに行うよう指導を強化する必要がある。   | 養成部  |
|    |   | ○農家派遣研修の評価(35点以上の割合%)<br>受入農家からの一定水準以上の評価<br>1年生:70%以上(R2実績:78%、R3実績:66%)<br>2年生:80%以上(R2実績:91%、R3実績:72%) | (1)学生の特性をよく把握した上での農家とのマッチング<br>(2)研修効果を高めるためコミュニケーション方法など事前指導の強化<br>・コミュニケーション力向上に向け、実習時に報告・連絡・相談等の基本的な取組を徹底する<br>1年生:8日間(6月)<br>2年生:30日間(10月)<br>(3)客観的な評価方法での校内評価<br>(4)農家派遣研修制度の見直し検討<br>・進路や学生の意向に応じた研修先や期間、時期等の見直しを行う。  | 【実績】<br>1年生(6月)8日間<br>受入農家の評価35点以上 37名中27名(73.0%)<br>2年生(10月)30日間<br>受入農家の評価35点以上 29名中19名(65.5%)  | (1)1年生は目標達成した。<br>(2)2年生は目標を達成することができなかった。1年生の時も評価35点以上は66%であり、成長の跡が見られなかった。今回評価が低かったのは、即就農予定の学生が多く、甘えがあり、研修に対する意欲が低かったことが原因と思われる。研修の目的を理解させる必要がある。  | 養成部  |
| 3  | 就農に向けた進路指導の強化<br>(教務課、養成部)                    | ◎就農予定者及び農業技術者<br>90%以上(26名)<br>(R2実績:87%、R3実績:94%)  | (1)インターンシップ研修、農業アルバイトによる実践学習<br>(2)農業法人説明会への参加誘導<br>(3)農業関連企業とのマッチング会の実施<br>(4)県内JAの説明会の実施<br>(5)各地域就農支援センターとの連携強化<br>【学科目標】<br>野菜学科:14名就農 花き学科:4名就農<br>果樹学科:4名就農 畜産学科:4名就農  | 【実績】 就農者及び農業技術者(27名) 93.1%<br>(1)インターンシップ派遣(のべ21名)、農業アルバイト実践(0人)<br>(2)農業法人説明会への参加者はいなかった。(5月)<br>(3)農業関連企業とのマッチング会は実施できていない。<br>(4)JAの説明会を開催した。(5月)<br>【進路内定状況】自営就農12名、雇用就農9名、農業関連企業8名、計29名  | ・進路決定率100%を達成することができた。(3月14日現在)<br>・全員が県内での就農および就職となった。  | 教務課  |
|    |   | ○学生のインターンシップ人数 20名<br>(R2実績:9名、R3実績:26名)  |  |   |  |      |
| 4  | 安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講<br>(研修部) | ○農業安全研修会<br>開催回数 40回以上<br>(R3実績:44回)  | (1)大特・けん引研修等における農作業安全指導(通年)<br>(2)各地域への研修開催働きかけ(10~11月)<br>(3)各地域での研修会の実施(2~3月)  | 【実績】農作業安全研修会 44回(110%)<br>(1)大特24回、けん引8回<br>(2)各地域での農作業安全研修12回  | (1)本年度もコロナの影響により日程の変更などがあったが、大特、けん引研修は当初の予定回数を実施することができた。次年度は、運転免許試験場との調整結果、今年度より2回減ることになるが、キャンセル待ちの農業者数が大幅に減少したため支障はないと思われる。(R3:147名、R4:44名)<br>(2)今年度は、集落営農法人が多数存在する宮崎市で研修会を開催することができた。今後も農作業安全啓発のため、生産部会、集落営農法人をとりえ効果的かつ波及効果が高い研修を行う。 | 研修部  |
|    |   | ○オープンアカデミーの内容充実<br>アンケートで満足と回答80%以上<br>(R3実績:87%)   | (1)受講者募集(5~6月)<br>・振興局担当者会議の実施<br>(2)開講準備(アンケート内容検討含む)(4~7月)<br>(3)開講(8~11月)<br>(4)アンケート結果とりまとめ(8~11月)<br>(5)結果分析(1月)<br>(6)問題点と次年度に向けての改善点の整理(1月)<br>(7)次年度カリキュラム案の作成(2月)   | 【実績】<br>満足(10点満点中7点以上)と回答する受講生の割合 80%(95%)<br>【講座別実績】<br>オープン講座 85%<br>基本講座 72%   | 満足度アンケート結果では80%となり目標を達成することができた。「やや不満」と回答したアンケートは10%程度であり、概ね満足度は高かったようだが、受講生自身が研修内容を理解できなかったため評価点が低くなったと思われる。満足度を高められるような内容になるようカリキュラム検討会において協議を行う。  | 研修部  |
| 5  | 健康で風通しの良い職場作りの推進<br>(総務課、教務課、養成部、研修部)         | ○職場内コミュニケーションの活発化   | (1)学校行事の報告や年末年始等の節目に合わせて、昼食会を開催し、職員同士の交流の機会を設ける。<br>(2)校内の連絡等はTeams活用し、その利便性の認識を図り、対話の機会を広げる。<br>(3)職員間や学生に対する声掛けや挨拶の実施。(3回/日・人)   | (1)昼食会はコロナ感染拡大防止を考慮し、2回開催。短時間ではあるが、対面の機会を設けることができた。昨年11月から親睦会(いちい会)が再開したため、今後はその活動に協力・支援し、職員間の理解を深め、組織力の強化に繋げたい。<br>(2)新寮や校内のトピックスはでチャットで一斉に情報共有し、また、個別の連絡事項にも活用することで、その利便性の認識を図り、対話の機会を広げることができた。<br>(3)職員間の挨拶や学生へのコミュニケーションは、目標回数以上に、随時、自然な形で実施されている。   | (1)懇親会の開催については、コロナ感染症への対応は随時軽減されるものと思うが、本校は教育機関であること、次年度以降は閉寮期間がないこと、大半の職員が車通勤であること等を考慮し、検討する必要がある。<br>(2)チャット機能による情報共有はされているが、対話形式ではないため、チーム内での日程調整やテレビ会議を活用するよう体制を整備する必要がある。<br>(3)特になし(継続実施)。   | 総務課  |
|    |   | ○業務の遂行に必要な柔軟な思考や知識の習得   | (1)将来を含め、業務の士気や能力の向上に繋がる選択的な研修の受講<br>(指名研修や全庁的なものを除く・1回以上/人)   | 受講率は87%(全23名:受講者20名、未受講者3名)であった。今後は未受講者の関心等を確認し、研修等の受講を奨励する。  | 本人の関心や希望によるものでなく、業務に関する受講が大半であった。各自、ライフワークバランスを見直すなど、時間的余裕が必要である。  | 総務課  |